

「気候変動、ユース世代により深刻な影響 ― 進学・就職選択にも影響、女子ユースは不安高く行動意欲も」
(ガールズ・リーダーシップ調査 2026 速報結果)

対 象 : 15-39歳 2,070 名
調査方法 : インターネット調査
調査時期 : 2025 年 8 月)
調 査 元 : 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

1. 背景

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンは、調査会社マクロミル社の協力のもと、全国の 15～39 歳の若者 2,070 人を対象にオンライン調査を 2025 年 8 月に実施しました。
本速報では、ユース世代(15～29 歳)と比較対象(30～39 歳)を対比し、気候変動が教育・就労・キャリア設計に与える影響を明らかにしています。

2. 調査対象のプロフィール

- 回答者総数:n=2,070
- 年代区分:ユース世代(15～29 歳)1242 人／比較対象(30～39 歳)828人【表1参照】
- 性別構成:女性50%、男性50%
＊性別構成:調査会社の設定により、性別は「男性」「女性」のみを区分。今回の調査では「その他」や「答えたくない」の回答はありませんでした。
- 居住地域:全国 47 都道府県(都市／地方、地域ブロック別)

表 1 回答者の属性(性別、年齢)

		全体	15才～19 才	20 才～24 才	25 才～29 才	30 才～34 才	35 才～39 才
			1242 人			828 人	
全体		(2070)	414 人	414 人	414 人	414 人	414 人
		100.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
性別	男性	(1035)	207 人	207 人	207 人	207 人	207 人
	女性	(1035)	207 人	207 人	207 人	207 人	207 人

表 2 回答者の属性(性別、居住地域)

		全体	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
全体		(2070)	17 人	242 人	916 人	360 人	64 人	92 人	9 人	370 人
			0.8	11.7	44.3	17.4	3.1	4.4	0.4	17.9
性別	男性	(1035)	7 人	125 人	468 人	188 人	35 人	45 人	7 人	160 人
			0.7	12.1	45.2	18.2	3.4	4.3	0.7	15.5
	女性	(1035)	10 人	117 人	448 人	172 人	29 人	47 人	2 人	210 人
			1.0	11.3	43.3	16.6	2.8	4.5	0.2	20.3

3. 主な結果(速報ポイント)

(1)気候変動の実感

両世代とも 8 割以上が「気候変動を強く感じる」と回答。

表 3 気候変動の影響を感じますか？

		全体	非常に感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	まったく感じない	Top2
全体		(2070)	830	847	270	72	51	1677
性別	女性	(1035)	418	442	127	31	17	860
	男性	(1035)	412	405	143	41	34	817
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	90	87	23	6	1	177
	女性 20-29 歳	(414)	148	183	58	18	7	331
	女性 30-39 歳	(414)	180	172	46	7	9	352
	男性 15-19 歳	(207)	86	82	29	8	2	168
	男性 20-29 歳	(414)	160	157	64	13	20	317
	男性 30-39 歳	(414)	167	166	50	20	12	332

15～19 歳および 30～39 歳で「非常に感じる」の割合が高い。年齢が低い場合“将来への不安”としての実感が強く、年齢が上がると“生活上の実体験”としての実感が強まる傾向が見られる。

(2)気候変動の影響を受けた経験

直近 5 年以内に、回答者および回答者の家族が経験した気象災害や極端な気候の影響をうけた経験は、ユース世代、参考世代ともに多い。

表 4 直近 5 年以内に、回答者および回答者の家族が経験した気象災害や極端な気候の影響

		全体	自分のみ	自分以外の家族	自分と家族の両方	この経験はない	経験あり
全体		(2070)	149	135	721	1065	1005
性別	女性	(1035)	59	54	368	554	481
	男性	(1035)	90	81	353	511	524
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	11	16	87	93	114
	女性 20-29 歳	(414)	26	14	154	220	194
	女性 30-39 歳	(414)	22	24	127	241	173
	男性 15-19 歳	(207)	13	26	83	85	122
	男性 20-29 歳	(414)	34	33	135	212	202
	男性 30-39 歳	(414)	43	22	135	214	200

ユース世代(特に 15～19 歳)は「自分と家族の両方が被災」の割合が高く、女性 15～19 歳で 42.0%、男性 15～19 歳で 40.1%。30 代よりも若年層の方が家庭内全体で影響を受けたと認識しているケースが多く、家族単位での被災意識が高い。

表 5 直近 5 年以内に回答者及び回答者の家族が経験した、気象災害や極端な気候の影響

	全体	台風・強風による被害(停電・倒木・家屋被害など)	大雨・集中豪雨・洪水(線状降水帯、河川氾濫、浸水など)	高温・猛暑(熱中症、屋外活動の制限、学校の中止など)	降雪・大雪による影響(通学・交通の混乱、停電など)	水不足・乾燥や農作物への影響(節水呼びかけ、野菜価格高騰など)	土砂災害(がけ崩れ、土石流など)	山火事	その他※地震は除く	上記項目 1～8 の影響で、自宅以外の場所に避難をした	無回答
全体	(2070)	823	1005	1381	891	733	216	157	117	189	391

性年代別	女性 15-19 歳	(207)	106	114	163	105	74	17	15	12	19	18
	女性 20-29 歳	(414)	140	194	256	165	133	29	19	17	25	84
	女性 30-39 歳	(414)	141	173	261	193	179	28	21	11	13	73
	男性 15-19 歳	(207)	102	122	166	91	78	43	29	24	33	22
	男性 20-29 歳	(414)	171	202	266	163	118	52	40	31	50	102
	男性 30-39 歳	(414)	163	200	271	174	151	47	33	22	39	92
【女性】被災経験別	被災経験あり	(858)	387	481	680	463	386	74	55	40	65	0
	台風・強風	(387)	387	287	323	240	199	59	47	34	50	0
	大雨・集中豪雨・洪水	(481)	287	481	396	297	234	67	47	32	56	0
	高温・猛暑	(680)	323	396	680	363	335	63	49	34	51	0
	降雪・大雪	(463)	240	297	363	463	229	56	47	30	48	0
	水不足・乾燥 や農作物への 影響	(386)	199	234	335	229	386	57	50	31	46	0
	土砂災害	(74)	59	67	63	56	57	74	34	21	30	0
	山火事	(55)	47	47	49	47	50	34	55	26	29	0
	その他	(40)	34	32	34	30	31	21	26	40	27	0
	避難経験あり	(67)	50	56	51	48	46	30	29	27	67	0
	被災経験なし	(177)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	175
【男性】被災経験別	被災経験あり	(819)	436	524	701	428	347	142	102	77	122	0
	台風・強風	(436)	436	355	384	257	217	126	85	67	97	0
	大雨・集中豪雨・洪水	(524)	355	524	457	314	253	131	96	72	109	0
	高温・猛暑	(701)	384	457	701	372	325	138	100	69	116	0
	降雪・大雪	(428)	257	314	372	428	219	117	87	66	94	0
	水不足・乾燥 や農作物への 影響	(347)	217	253	325	219	347	107	88	58	87	0
	土砂災害	(142)	126	131	138	117	107	142	80	57	75	0
	山火事	(102)	85	96	100	87	88	80	102	53	65	0
	その他	(77)	67	72	69	66	58	57	53	77	57	0
	避難経験あり	(122)	97	109	116	94	87	75	65	57	122	0
	被災経験なし	(216)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216

ユース世代、参考世代ともに被災経験として最も挙げられたのが「高温・猛暑(熱中症、屋外活動の制限、学校の中止など)」。避難経験がある者のうち原因として多いのが「大雨・集中豪雨・洪水(線状降水帯、河川氾濫、浸水など)」「台風・強風による被害(停電・倒木・家屋被害など)」「降雪・大雪による影響(通学・交通の混乱、停電など)」が挙げられた。「被災経験がない」と回答した者は、女性回答者の 20.6%、男性回答者の 26.4%であり、

多くの回答者が「回答者自身または家族が、直近 5 年間に気象災害や極端な気候の影響を受けている」と考えていた。

表 6 気候変動(気象災害含む)の影響で、進学や就職などの人生計画を変更した/変更を検討した

		全体	はい、実際に変更した	はい、検討したが、実際には変更しなかった	いいえ、検討や変更したことはない	わからない／答えたくない	変更・検討経験あり
全体		(2070)	80	129	1592	269	209
性別	女性	(1035)	25	45	818	147	70
	男性	(1035)	55	84	774	122	139
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	8	16	153	30	24
	女性 20-29 歳	(414)	7	17	320	70	24
	女性 30-39 歳	(414)	10	12	345	47	22
	男性 15-19 歳	(207)	13	27	144	23	40
	男性 20-29 歳	(414)	23	32	308	47	55
	男性 30-39 歳	(414)	19	25	322	48	44
	男性 40-49 歳	(414)	19	25	322	48	44
【女性】被災経験別	被災経験あり	(858)	24	42	678	114	66
	避難経験あり	(67)	8	9	36	14	17
	被災経験なし	(177)	1	3	140	33	4
【男性】被災経験別	被災経験あり	(819)	52	82	604	81	134
	避難経験あり	(122)	27	32	46	17	59
	被災経験なし	(216)	3	2	170	41	5

気候変動(気象災害含む)の影響で、進学や就職などの人生計画を変更した、または変更を検討した人の割合は、女性より男性の方が多い。また被災経験があると、進路の実際の変更や、変更を検討する割合は高い。その割合は避難経験があると特に高くなっている。

進学や就職に影響を受けた割合(変更または検討)は 15～19 歳の男性で最も高く(19.3%)、次いで 20～29 歳男性(13.3%)。女性は全年代で比較的低め(6～8%)で、気候変動を“人生設計に関わるリスク”と受け取っているのは若年男性に顕著。

表 7 進学や就職などの人生計画を変更した、または変更を検討したと回答した場合、どのような変更または検討をしたか(複数回答可)

		全体	志望校・進学先の変更 (例:自宅から通える範囲に)	長期研修の断念・延期(例:留学やインターシップ)	希望していた進路(専門・学部)の変更	進学をあきらめた／中断した	就職先(勤務地)の変更(災害リスクなどを考慮して)	気候関連の職業(グリーンジョブ)に進路変更	自然環境に影響される産業(農業・観光など)を避けた	柔軟な働き方(フリーランス・在宅勤務など)を選択	将来住む場所や移住先の変更	結婚・出産・家庭形成の時期や希望の変更	その他
全体		(209)	71	45	29	21	55	25	41	53	50	21	5
性別	女性	(70)	21	12	7	6	15	5	13	19	14	7	3
	男性	(139)	50	33	22	15	40	20	28	34	36	14	2

年代別	15-19 歳	(64)	52	22	16	14	22	11	12	9	11	5	1
	20-29 歳	(114)	25	19	13	9	26	10	15	23	21	8	2
	30-39 歳	(96)	10	13	7	3	19	8	14	21	18	8	2
性年代別	女性 15-19 歳	(24)	13	4	3	2	2	1	3	3	4	1	0
	女性 20-29 歳	(24)	5	5	1	3	5	1	2	6	6	2	1
	女性 30-39 歳	(22)	3	3	3	1	8	3	8	10	4	4	2
	男性 15-19 歳	(40)	23	9	6	7	8	6	9	6	7	4	1
	男性 20-29 歳	(55)	20	14	12	6	21	9	13	17	15	6	1
	男性 30-39 歳	(44)	7	10	4	2	11	5	6	11	14	4	0
【女性】 被災経験別	被災経験あり	(66)	19	12	7	6	15	5	13	19	12	7	3
	避難経験あり	(17)	9	6	4	2	5	3	5	3	5	3	0
	被災経験なし	(4)	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
【男性】 被災経験別	被災経験あり	(134)	49	32	22	15	40	20	28	34	33	14	2
	避難経験あり	(59)	25	16	9	8	22	11	12	16	10	4	0
	被災経験なし	(5)	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0

進学や進路の変更をした、あるいは変更を検討した者のうち、最も多いのが「志望校・進学先の変更」であり、年齢が下がるほどその割合は高い。20 代の男性の場合「勤務地の変更」をあげる者も多かった。これは 10 代の場合は高校・大学の進学が、20 代は就職に伴う住居の移転などがあることが考えられる。「自然環境に影響される産業(農業・観光など)を避けた」「柔軟な働き方(フリーランス・在宅勤務など)を選択」と回答した人数は男性の方が大きく、気象災害を含む影響は、女性よりも男性に与えることが見て取れる。

15～19 歳は「志望校・進学先の変更」が突出して高く(64 人中 52 人＝81.3%)。進学段階にある若者にとって、通学の安全性や災害リスクが進学先選別に直接影響していることを示している。30 代では「柔軟な働き方の選択」や「移住の検討」など、ライフスタイル全体を見直す傾向が強い。

(3)気象災害時や極端な気候の影響を経験した時の、男女の役割や負担の格差

表 8 直近 5 年以内に回答者及び回答者の家族が気象災害時や極端な気候の影響を経験した時に、男女の役割や負担に違いがあると感じたことはあるか(複数回答可)

		全体	女性(または自分の家の中の女性)が、家事・ケア(子ども・高齢者・障害者など)を主に担っていた	男性が、屋外作業や復旧作業(片づけ、補強、運搬など)を担う場面が多かった	女性や女の子が避難所や屋外で安全面やプライバシーに不安を感じていた	家族内での意思決定や災害対応の話合いで、男性の意見が優先されると感じた	男性の方が早く外での仕事に戻り、女性が家に残る傾向があった	その他	特に違いは感じなかった	違いを感じた・計
全体		(1677)	252	285	251	107	166	6	1014	663
性別	女性	(858)	159	130	162	43	67	6	505	353
	男性	(819)	93	155	89	64	99	0	509	310
性年代別	女性 15-19 歳	(189)	35	35	45	9	17	1	103	86
	女性 20-29 歳	(229)	62	46	55	16	20	0	202	127
	女性 30-39 歳	(340)	62	49	62	18	30	5	200	140
	男性 15-19 歳	(185)	28	44	22	16	28	0	100	85
	男性 20-29 歳	(312)	40	52	34	36	36	0	196	116
	男性 30-39 歳	(322)	25	59	33	12	35	0	213	109

【女性】 被災経験別	被災経験あり	(858)	159	130	162	43	67	6	505	353
	避難経験あり	(65)	20	17	16	6	12	0	26	39
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
【男性】 被災経験別	被災経験あり	(819)	93	155	89	64	99	0	509	310
	避難経験あり	(122)	28	42	22	21	28	0	35	87
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0

女性 15～19 歳は「避難所や屋外で安全・プライバシーに不安を感じた」が約 24%と高く、他年代よりも敏感に反応している。

表 9 回答者自身の経験

		全体	災害時に、食事・掃除・介護・育児などの家事・ケア労働を主に担った	災害復旧や避難準備の中で、性別に基づく役割分担を強く感じた	家族や周囲の中で「男性／女性らしい行動」を求められた	避難所や帰宅時などで、安全性やプライバシーに不安を感じた	災害や気候変動の影響を踏まえた進学・就職の希望が家族に否定された	気候問題について自分の意見を軽視・無視されたと感じたことがある	その他	特にあてはまるものはない
全体		(1677)	130	121	176	184	101	125	0	1208
性別	女性	(858)	50	45	76	76	30	43	0	663
	男性	(819)	80	76	100	108	71	82	0	545
性年代別	女性 15-19 歳	(189)	12	13	25	24	11	17	0	134
	女性 20-29 歳	(329)	15	20	23	21	14	151	0	261
	女性 30-39 歳	(340)	23	12	28	31	5	11	0	268
	男性 15-19 歳	(185)	27	18	26	23	25	20	0	113
	男性 20-29 歳	(310)	30	35	40	54	31	33	0	202
	男性 30-39 歳	(322)	23	23	34	31	15	29	0	230
	男性 40-49 歳	(322)	23	23	34	31	15	29	0	230
【女性】被災経験別	被災経験あり	(858)	50	45	76	76	30	43	0	663
	避難経験あり	(65)	10	16	19	12	10	9	0	29
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
【男性】被災経験別	被災経験あり	(819)	80	76	100	108	71	82	0	545
	避難経験あり	(122)	30	27	31	37	22	30	0	31
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0

回答者自身の経験では、避難した先や災害復興時のジェンダー役割を感じると回答する割合が高かった。他方、男性の回答者より女性の回答者で突出して多いのは、「気候問題について自分の意見を軽視・無視されたと感じたことがある」であり、特に 20 代女性の場合、回答数 329 件中 151 件に上った。

表 10 直近 5 年以内に回答者や回答者の家族が気象災害時や極端な気候の影響を経験した時に、年齢や性別によって支援や配慮に違いがあると感じた経験(複数回答)

	全体	若者(高校生・大学生など)の声が避難所や地域で反映されにくいと感じた	女性や女の子が困っていること(トイレ、着替え、生理用品など)を言い出しにくい状況があった	同年代の異性に比べて、自分(または同性の友人)が意思決定に関わりにくかった	高齢者・大人の意見が優先されて、自分の行動が制限されたと感じた	その他	特に違いは感じなかった	違いを感じた・計

全体		(1677)	161	265	112	159	9	1175	502
性別	女性	(858)	60	160	41	64	7	619	239
	男性	(819)	101	105	71	95	2	556	263
性年代別	女性 15-19 歳	(189)	25	47	16	16	1	114	75
	女性 20-29 歳	(329)	23	60	10	30	1	241	88
	女性 30-39 歳	(340)	12	53	5	18	5	264	76
	男性 15-19 歳	(185)	34	29	17	23	0	110	75
	男性 20-29 歳	(312)	41	41	34	42	1	205	107
	男性 30-39 歳	(322)	26	35	20	30	1	231	81
【女性】被災経験別	被災経験あり	(858)	60	160	41	64	7	619	239
	避難経験あり	(65)	7	21	13	14	0	30	35
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0
【男性】被災経験別	被災経験あり	(819)	101	105	71	95	2	556	263
	避難経験あり	(122)	34	29	28	29	1	40	82
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0

支援や配慮に違いを感じたか、という質問については、女性の方が「感じた」と回答する割合は高い。15～19 歳の女性の 47 人(24.9%)が「生理用品や着替えなどを言い出しにくい状況があった」と回答しており、同年代男性や 30 代女性よりも高い。若年女性が避難環境の中で特有の課題に直面していることを示唆している。

(4)若者としての経験

表 11 気象災害のとき、若者として行ったこと・したかったこと(複数回答)

		全体	情報発信 (SNS での 共有・翻訳・ 注意喚起など) をした／ したかった	避難所 での手 伝いや ボラン ティアに 参加し た／し たかつ た	同世 代や 子ど もへ の声 かけ やサ ポート を行 った ／し たかつ た	家族のケア や地域で の役割分 担で行動し た／したかつ た	参加したいと 思ったが、機 会がなかった ／周囲から止 められた	その他	特に何もし ていない ／わから ない	行動／ 行動意 向あり・ 計
全体		(1677)	165	170	134	143	192	3	1137	540
性別	女性	(858)	63	67	55	54	81	2	629	229
	男性	(819)	102	103	79	89	111	1	508	311
性年代別	女性 15-19 歳	(189)	19	19	19	17	24	1	118	71
	女性 20-29 歳	(329)	25	29	19	17	30	0	342	87
	女性 30-39 歳	(340)	19	19	17	20	27	1	269	71
	男性 15-19 歳	(185)	29	31	24	19	33	0	94	91
	男性 20-29 歳	(312)	44	43	32	32	50	0	193	119
	男性 30-39 歳	(322)	29	29	23	38	28	1	221	101
【女性】	被災経験あり	(858)	63	67	55	54	81	2	629	229

被災経験別	避難経験あり	(65)	11	9	8	12	11	0	35	30
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
【男性】被災経験別	被災経験あり	(819)	102	103	79	89	111	1	508	311
	避難経験あり	(122)	29	28	28	31	34	0	33	89
	被災経験なし	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0

行動・行動意欲の合計が高いのは15～19歳男性(91人、49.2%)で、全体平均を上回る積極性を示している。一方で「何もしていない」が多いのもこの層であり、意欲はあるが機会に恵まれていない可能性を指摘できる。

(5)気候変動をどこで学んだか

表 12 気候変動に関する知識をどこで得たか

		全体	学校	SNS	メディア (TV・新聞 など)	家族・友人	職場	その他	情報は特に 得ていない
全体		(2070)	255	904	989	360	192	13	565
性別	女性	(1035)	115	447	512	177	69	5	285
	男性	(1035)	140	457	477	183	123	8	280
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	70	105	93	44	5	1	31
	女性 20-29 歳	(414)	31	183	189	56	23	2	121
	女性 30-39 歳	(414)	14	159	230	77	41	2	133
	男性 15-19 歳	(207)	65	112	95	44	12	1	31
	男性 20-29 歳	(414)	63	189	166	71	57	5	127
	男性 30-39 歳	(414)	12	156	216	68	54	2	132
【女性】最終学歴別 (学生除く)	中学校・高校	(236)	5	91	101	29	17	2	88
	専門学校・高等専修学校	(143)	7	48	72	26	12	0	52
	大学(短大・四大)	(360)	15	160	200	61	34	1	97
	大学院	(12)	0	8	9	5	1	0	1
	その他	(2)	0	0	1	0	1	0	1
【男性】最終学歴別 (学生除く)	中学校・高校	(282)	11	110	118	39	33	2	101
	専門学校・高等専修学校	(88)	7	29	38	16	11	0	22
	大学(短大・四大)	(336)	23	143	178	68	60	4	92
	大学院	(36)	3	12	10	2	5	1	15
	その他	(2)	0	2	1	0	1	0	0

年齢が上がるにつれてメディア(TV、新聞など)から情報を収集するのは男女共通している。また学校と回答する者は、10代の回答者では多い結果となった。

表 13 学校などでどのように「気候変動」について学んだか

		全体	理科や地学などの授業で自然科学として学んだ	社会科・地理・公民などで気候変動の影響について学んだ	総合的な学習の時間や探究活動で学んだ	保健体育・家庭科・技術などで学んだ	学校の特別活動（出前授業、講演会、環境キャンペーンなど）で学んだ	学校外（NGO・市民団体の講座、自治体のイベントなど）で学んだ	その他	覚えていない	気候変動について学ぶ機会は特になかった	学んだことがある・計
全体		(2070)	591	661	335	176	321	120	10	257	684	1129
性別	女性	(1035)	302	332	156	71	141	51	6	126	354	555
	男性	(1035)	289	329	179	105	180	69	4	131	330	574
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	86	95	73	29	54	13	1	13	32	162
	女性 20-29 歳	(414)	128	128	42	24	66	21	2	48	139	227
	女性 25-29 歳	(207)	53	52	11	8	24	9	0	29	84	94
	女性 30-39 歳	(414)	88	109	31	18	29	17	3	65	183	166
	女性 35-39 歳	(207)	47	53	18	10	19	10	2	33	92	82
	男性 15-19 歳	(207)	79	100	61	32	55	17	0	15	32	160
	男性 20-29 歳	(414)	151	140	70	46	81	30	1	52	127	235
	男性 25-29 歳	(207)	49	63	30	27	34	17	1	26	73	108
	男性 30-39 歳	(414)	89	89	48	27	44	22	3	64	171	179
【女性】 最終学歴別(学生除く)	中学校・高校	(236)	50	44	14	12	14	8	0	45	105	86
	専門学校・高等専門学校	(143)	34	34	9	7	15	12	0	21	62	60
	大学(短大・四大)	(360)	104	123	38	16	46	17	4	43	128	189
	大学院	(12)	3	5	4	0	1	1	0	1	5	6
	その他	(2)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
【男性】 最終学歴別(学生除く)	中学校・高校	(282)	53	71	26	20	28	16	1	45	117	120
	専門学校・高等専門学校	(88)	21	20	8	11	14	6	0	11	35	42
	大学(短大・四大)	(336)	98	103	63	35	56	23	3	42	111	183
	大学院	(36)	8	9	0	1	4	4	0	6	15	15
	その他	(2)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0

表 14 気候変動政策や地域防災計画に、若者や女性の声が反映されているか？

		全体	とてもよく反映されていると思う	ある程度反映されていると思う	どちらともいえない	あまり反映されていないと思う	まったく反映されていないと思う
全体		(2070)	66	310	984	469	241
性別	女性	(1035)	16	115	489	285	130
	男性	(1035)	50	195	495	184	111
性年代別	女性 15-19 歳	(207)	6	46	94	50	11

女性 20-24 歳	(207)	2	20	104	56	25
女性 25-29 歳	(207)	2	18	91	65	31
女性 30-34 歳	(207)	2	15	101	56	33
女性 35-39 歳	(207)	4	16	99	58	30
男性 15-19 歳	(207)	17	58	75	34	23
男性 20-24 歳	(207)	13	45	89	39	21
男性 25-29 歳	(207)	10	40	99	37	21
男性 30-34 歳	(207)	9	33	104	36	25
男性 35-39 歳	(207)	1	19	128	38	21

「とても反映されていると思う」は全体のわずか 3.2%(66 人)にとどまり、女性 15~19 歳ではわずか 6 人 (2.9%)。若年層は特に「反映されていない」との認識が強く、政策決定プロセスからの疎外感が伺える。

長島美紀(プラン・インターナショナル・ジャパン アドボカシーグループリーダー、政治学博士)コメント:

9 月の防災月間にあたり、今回の調査結果は、気候変動が単なる環境問題にとどまらず、教育や就職、そして若者の将来設計にまで深く影響していることを改めて浮き彫りにしています。

特に、ユース世代、なかでも 10 代・20 代の若者たちは、将来への選択肢が制限されたり、自らの声が政策に反映されにくいと感じたりしている現実があります。災害時におけるジェンダーによる負担の差や、安全・プライバシーに対する不安の声も見逃せません。

私たちは、若者や女性の声が防災・気候政策の中で当たり前のように尊重され、反映される社会を目指さなければなりません。教育、行政、メディア、そして私たち市民社会がそれぞれの立場でできることを今、問い直すべき時です。

本調査が、多くの方々にとって“聞くべき声”に耳を傾けるきっかけになることを願っています。